

K. CAT金沢の交通とまちづくり

市長提言

2001年7月23日

K. CAT(金沢の都市と交通を考える会)

K . C A Tとは・・・

設立主旨

K . C A Tは、「金沢のまちづくり、特に都市と交通のあり方について、その方向性や施策を行政に提言するとともに、市民への提案と啓蒙を行うこと」を目的に設立している。代表を金沢大学工学部教授高山純一とし、日頃から金沢のまちづくりに関わる学識者、経済人、一般市民、若手行政担当者（石川県、金沢市、建設省）など17人で構成しており、個人的な立場を離れ、専門的な議論を行っている。

K . C A Tとは、「金沢(Kanazawa)の都市(City)と(and)交通(Transportation)を考える会」の頭文字をとりK . C A Tとしている。

活動内容

- | | |
|----------------|---|
| 定例会
市民フォーラム | ・毎月1回程度、通算30回開催（平成13年6月現在）
・第1回市民フォーラム（参加者117人）
平成11年12月11日（土）金沢市文化ホール大集会室
金沢のバス交通を考える～まちからバスが消えるとき～ |
| 市民ヒアリング | ・第2回市民フォーラム（参加者157人）
平成13年1月14日（日）金沢市文化ホール大集会室
中心市街地を考える～まちからにぎわいが消えるとき～ |
| 視察その他 | ・都心居住者ヒアリング（2回）、不動産ヒアリング、
住宅メーカーヒアリング、商店街ヒアリング
・鎌倉市視察
・スイス環境と交通クラブのマティアス・ツィンマーマン氏との意見交換会 |

提言要旨

市長へ提言する「K.CAT金沢まちづくり提言」は、交通とまちづくりのあり方として、中心市街地は「魅力“金沢”の賑わいが歴史と革新を創るまち」を目指すことを基本とし、中心市街地と郊外のあり方について全体像を示している。

具体的な施策としては、5つのまちづくり方針から、居住、交通、就労、商業、学習、娯楽などの機能別に10の具体的な施策案を提案し、今回は中間報告として、市民フォーラムで関心の高かった「居住」と「交通」の2つについて目指すべき方向をまとめている。

居住施策例)一団地認定制度等の活用、ビルトイン駐車場使用の戸建て住宅に対する建蔽・容積率の緩和、多様なコンセプト住宅PR、行政主導の定期借地、設計費補助など

交通施策例)コミュニティバス、月極駐車場の集約・住宅地転用、パーク&ライドの強化、月極駐車場の集約・低減、バス専用レーンの区間延伸・時間延長など

今後の活動方針

平成13年度は、専門的な立場から交通課題の検討を深めるとともに、市民フォーラムを開催し、提言をもとにした市民への啓蒙・啓発活動及び意見交換を行う。

平成14年度以降については、交通とまちづくり施策について具体的検討を深め、市民への提言・啓蒙活動を行っていく。

K . C A Tメンバー表

50音順

青海万里子	（エコライフ工房ディレクタ）
五十川泰史	（国土交通省金沢工事事務所調査第二課長）
板屋 源平	（金沢市建設部都市計画課担当課長補佐）
沖 伊知郎	（日本政策投資銀行企画調査課長）
北原 良彦	（金沢経済同友会幹事）
木谷 弘司	（金沢市都市政策部交通政策課担当課長補佐）
清水 潤子	（彫刻家、日展作家）
高山 純一	（金沢大学工学部教授）
竹村 裕樹	（石川県土木部都市計画課課長補佐）
前平 一彦	（元金沢市都市政策部交通対策課長）
三国 千秋	（北陸大学教授）
宮岸 武	（北陸鉄道バス事業本部運行部次長）
宮谷内雄一	（金沢青年会議所「活力ある都市創造委員会」委員長）
山岸 勇	（石川県金沢土木事務所都市施設課都市施設第一係長）
山岸 淑子	（豎町商店街 山岸化粧品店店主）
山本 隆文	（金沢中心商店街まちづくり協議会事務局長）
四藤 一成	（株計画情報研究所主任研究員）

（平成13年6月末現在）

K . C A T金沢の交通とまちづくり提言（中間報告）

金沢の交通とまちづくりのあり方

< 基本的考え方 >

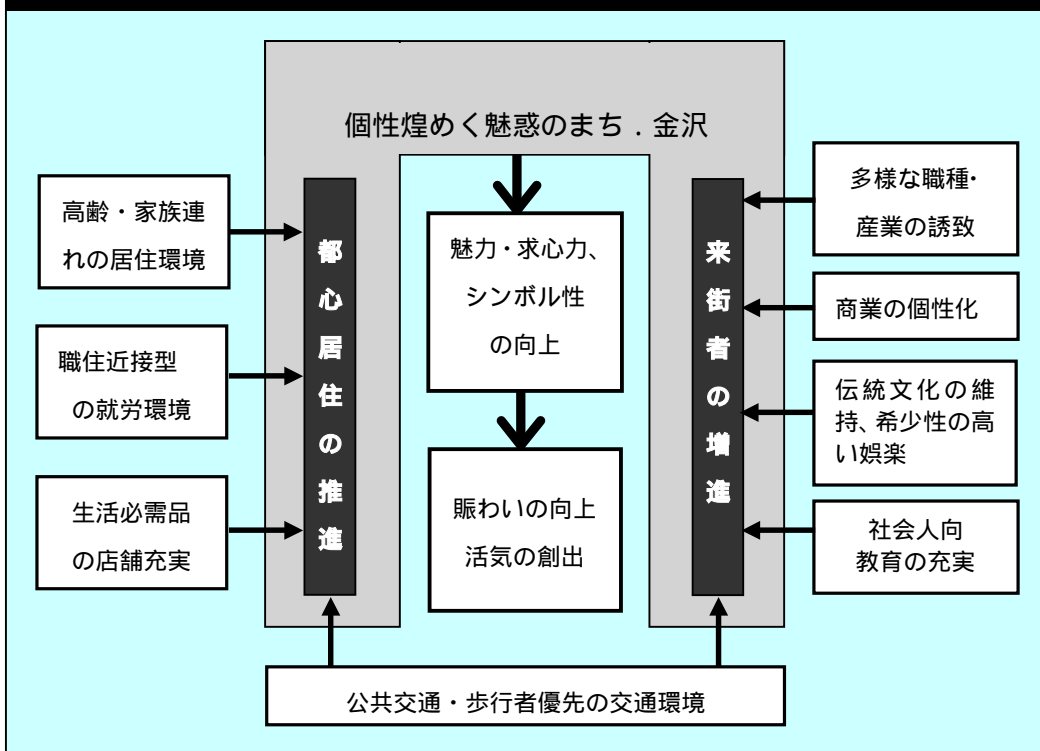
中心市街地は既存のストックを生かしながら、住む人は暮らしやすく、来街者は過ごしやすいまちとして、

魅力“金沢”の賑わいが歴史と革新を創るまち

を目指し、賑わいの向上や活気の創出を図ります。

郊外は、新規の大規模開発は駅西地区にとどめ、中心市街地の活力を阻害しない互いに不十分な部分を補う役割とし、中心市街地との相乗効果を発揮しながら、バランスの良い投資を進め、世界に情報発信するまち金沢を築く土台とします。

中心市街地活性化のあり方



差別化
相乗効果

区画整理事業は市街地区域の再整備にとどめる

駅西は、国際的、広域的な新機能の充実

大型店・ロードサイド店の出店規制

環状道路等、骨格の整備

郊外開発のあり方

5つのまちづくり方針

・ 都心居住を進める

高齢化への対応やコミュニティの回復を図るため、都心居住を進めます。
中心市街地に合った居住形態を進め、生活必需品店の充実を図るとともに、都心居住の3Kイメージ（高価、窮屈、危険）を払拭する居住環境づくりを進めます。

・ まちの個性化、魅力向上を図る

郊外の大型店・ロードサイド店との差別化を図り、魅力ある個性的なまちづくりを進めます。
洗練された雰囲気づくりや金沢の歴史・伝統・文化の熟度を高め、集う人々が誇りに思う魅力あるまちづくりを進めます。

・ 交流機会を増やす

歩いて心地よい散策ルートや緑あふれる溜まりスペースの整備、歩きたくなる店づくり、イベント充実、習い事などの体験型の文化・学習機能等の充実により、楽しく過ごしやすいまちづくりを進め、昼夜問わず多種多様な交流機会を増やします。

・ 公共交通、歩行者交通優先とする

限られた都心空間を有効活用する観点から、生活者・来街者ともにマイカーに頼らない公共交通・歩行者優先のまちづくりを進めます。

・ 中心市街地への投資を進め、都市全体のコンパクト化を図る

中心市街地を核としたコンパクトな都市構造を実現するため、公共投資の比重をこれまでの郊外開発から既成市街地の充実に移し、中心市街地への民間投資の促進を図ります。郊外開発を現状にとどめ、環境負荷の軽減を図ります。

10の具体的施策案（概要）

都心居住整備メニューの多様化

高層階を住居棟とする複合ビルや一団地住宅施設の整備、既存住居の内装更新等により、伝統的外観を残しテーマ性をもたせる等、ファミリー層向け、あるいは高齢者向けの集合住宅等を建設します。

官民パートナーシップによる都心居住推進

低未利用地を行政が集約し、定期借地による民活も活用しながら、街区の再整備を進めます。
狭小地を工夫する設計費への補助や優良施設の建設費・家賃等への補助拡充等、官民のパートナーシップにより都心居住を推進します。

自動車に依存しない都心居住スタイルの提案

きめ細かいふらっとバス網や幹線道路での駐車場の集約、自動車の共同所有等により、自動車依存の少ないまちづくりを進めます。

公共交通・歩行者優先の空間づくり

公共交通・歩行者優先のトランジットモールを導入します。
バスは高頻度運行や乗換え面の改善、歩行者・自転車空間は連続的整備により、道路空間の魅力・回遊性を高めます。

公共交通によるアクセス機能の強化

パーク＆ライドの拡充やバスレーンの徹底・強化により、公共交通によるアクセスを強化します。バス運行は、運行時間帯の拡大や料金面のインセンティブ等により、高齢者をはじめとした市民の日常の足として利用を高めます。
環状道路や低料金フリッジパーキングの整備により、自動車の乗り入れの減少を図り、環境負荷の小さいアクセス環境を目指します。

多様な職種・産業の誘致

多様な職種を受け入れられるような幅広い環境整備を進めます。居住・就労機能の一体化を都心のメリットとし、規模や職種を問わない多様な産業の誘致を目指します。

個性的な専門店の集積

高級、希少、個性溢れる専門店の集積を図り、手に入らないものが手に入る商業エリアとして郊外量販店との差別化を図ります。

社会人学習の推進

生涯学習や大学解放センター等の社会人学習の機会（公開講座等）を増やし、小劇場の利用、大学共同講座等により魅力づけを行います。

文化・芸術機能集積ゾーンの創出

県庁跡地、金沢城址公園、広坂芸術街を核とし、金沢の伝統・文化・芸術の機能を最大限に活用し市民に開かれた、魅力ある文化ゾーンをつくり出します。
小規模劇場等を活用し、文化の発信基地の多様化を図ります。

個性的な娯楽施設の集積

希少性のある娯楽（単館ものの映画、ギャラリー、小規模演劇、ライブハウス等）や商店街と一体となったイベント、洒落た飲食、夜の歓楽街等、昼夜を問わず人が集う仕掛けづくりを進めます。
深夜バスなども整備し、交通機能の充実も進めます。

居住

交通

就労

商業

学習

娯楽

娯楽

大目標

都心の賑わい創出

都心居住に求められる役割

多様な居住形態の提供
 快適な居住空間の創出
 ライフスタイルにあった住まいの創出

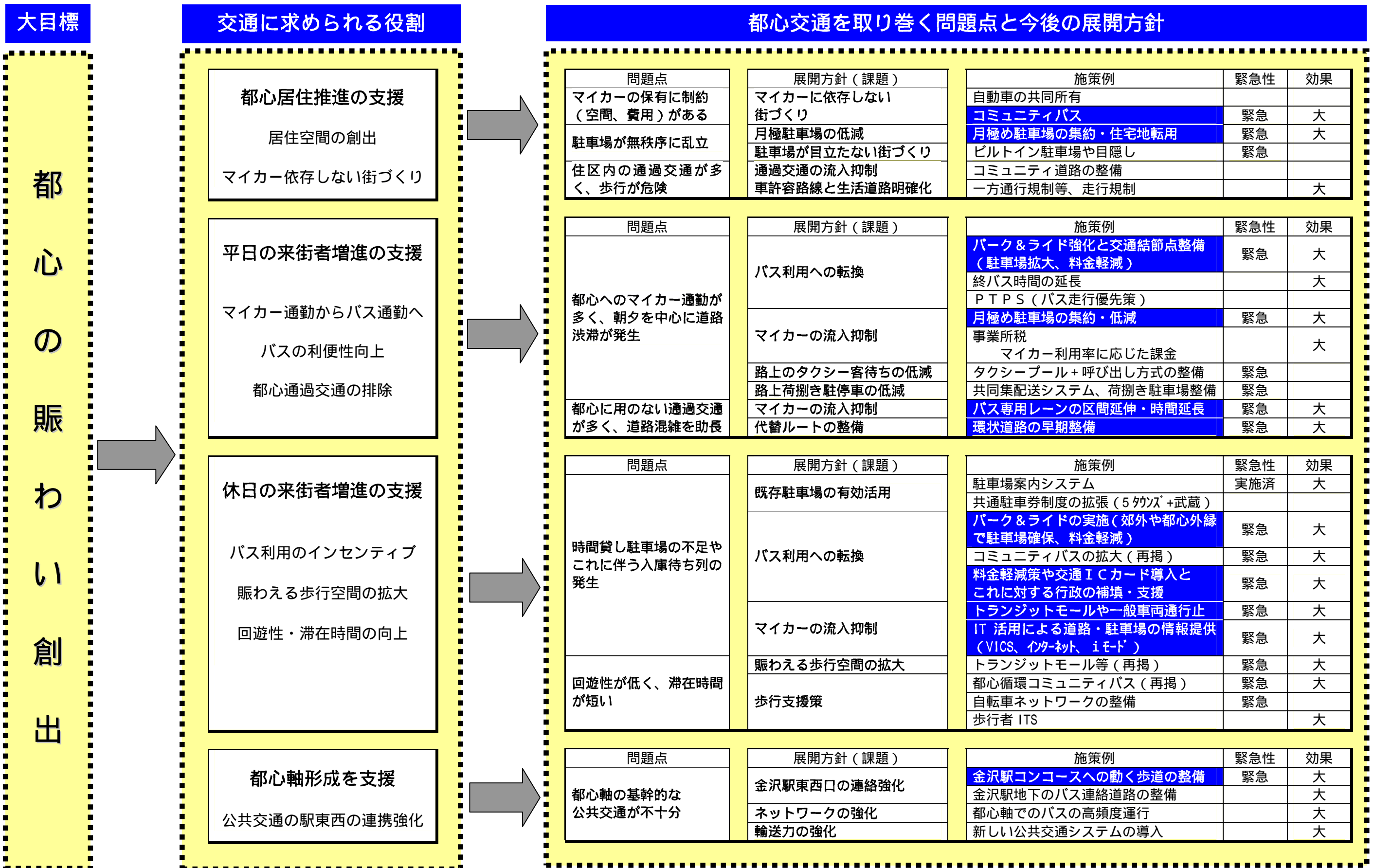
生活の利便性向上
 交通、買物、子育て等の快適な生活環境の創出

住みよい街並み・まちづくり
 金沢らしい街並みの創出
 車のいない生活の推進
 安心のまちづくり

都心居住を取り巻く問題点と今後の展開方針

問題点	展開方針	施策例	緊急性	効果
狭小な敷地が多く 居住スペースが ライフスタイルと合わない	最低居住スペースの 確保	一団地認定制度等の活用	緊急	大
		ビルトイン駐車場仕様の戸建て住宅建設に 対する建蔽・容積率の緩和	緊急	大
	狭くても快適な住まいの 工夫	多様なコンセプト住宅PR	緊急	大
土地が高く、居住費が高い	安価な住宅費の設定	行政主導の定期借地	緊急	大
		設計費補助	緊急	大
		優良施設の建設費・家賃補助	緊急	大
公共交通が不便 P料金が高く車の維持費が高い	公共交通の利便性向上	コミュニティバスの連携強化	緊急	大
		近江町市場などへのアクセスの充実 最寄り品配送サービスの充実		
	最寄り品を売る店がない	最寄り品購入の 利便性向上		
	少子化、車が多く子どもに危険	子育て環境の充実	若年夫婦向け居住スタイルの提案 通学路の歩行者優先ゾーン化	
不ぞろいな街並み 歯抜けの土地	金沢らしい街並みを誘導	町屋等の改修にむけた現地調査サービスの創設	緊急	大
		街並み誘導にむけての情報サービスの提供	緊急	大
		ビルトイン駐車場の外観整備の補助制度	緊急	大
車が多く環境に悪い	自動車依存からの脱却	事務所と居住の複合化		大
		社宅機能を備えたビルへの優遇制度		大
		住宅就業機能を備えた戸建て住宅への優遇		大
人口が減り治安が悪い	市民協力の 安心まちづくり	コーポラティブ住宅への建設補助		大

緊急性「緊急」: 課題解決に対して早期の取組みが必要と考えられるもの
 効果「大」: 課題に対する実施効果が大きいと考えられるもの



緊急性「緊急」: 課題解決に対し早期の取組みが必要と考えられるもの
効果「大」: 実施効果が大きいと考えられるもの